

医療安全管理について(シリーズ16)

～ 薬の副作用シグナルを知る ～

薬物治療を受けている患者は、期待した治療効果を得る一方、副作用で苦しむことが少なくありません。また近年、作用と副作用が共に強力な医薬品、日本人データが乏しいまま承認される医薬品などが多く臨床使用され、安全で安心な薬物治療のために、継続した副作用モニタリングの必要性が高まっています。今回はそれらの「副作用シグナル」を患者さんも一緒になってモニタリングできるようなツールを以下に紹介します。

好ましくない副作用の自覚症状

執筆 吉本久子 山口大学医学部附属病院薬剤部病態薬理主査
監修 古川裕之 山口大学大学院教授/医学部附属病院薬剤部長

お薬を飲んでこのような症状はありませんか？

1 皮膚の症状

- かゆい
- 皮膚が赤くなった
- 皮膚が黄色くなった
- ブツブツができた



3 尿の症状

- 尿が赤くなった
- 尿の量が減った
- 尿の量が増えた
- 排尿時に痛みがある



2 目の症状

- かすんで見える
- 目が痛い
- 白目が黄色くなった
- 目が充血した



4 手や足の症状

- 手足がふるえる
- 手足が痛い(筋肉や関節が痛む)
- 手足がしびれる
- うまく歩けない



5 お腹の症状

- 吐き気やおう吐がある
- お腹が痛い
- 食欲がない
- 水のような便が出る



7 血液の症状

- 鼻や歯ぐきから出血した
- 皮下出血がある
- 尿に血が混ざる
- 便に血が混ざる



6 呼吸や胸の症状

- 息苦しい
- 咳が出る
- 心臓がドキドキする
- 胸が痛い



8 全身の症状

- 熱が出た
- 体がむくむ
- 体がだるい
- 汗が出る



(イラスト よしとみあさみ)

Clinical Pharmacist 第3巻2号

MCメディア出版

一般的な副作用を8分野に分け、患者さんにも分かりやすく作られています。逆に患者さんが薬を飲み始めた後に我々医療者が定期的にフォローすべき副作用シグナルともいえるため、患者さんに調子を確認する際にはこのシートにある項目について先ずは問診してみるのも有効であると考えます。